



# ENGINEER® の MPDP ダイアリー



高崎 充弘

## 第15回 MPDP 理論誕生までの道のり⑤

[Profile]

東京大学工学部卒業後、三井造船入社。米国レンスラー工科大学で修士課程修了後、(株)エンジニアの前身である双葉工具に入社。2004年に同社代表取締役社長に就任。独自の「MPDP理論」によるニッポンのモノづくり立国を提唱している。

### P (Patent) の深層構造

本稿4月号では、特許等の取得は必要条件ではあっても十分条件ではないということをお話ししました。今回はその続編として、「P」に含まれるさらに深い意味についてお話ししたいと思います。

ネジザウルスが特許、意匠、商標、著作権など国内外18件の知的財産権を取得しているように、Pは必ずしも特許権 (Patent) だけを意味するものではありません。意匠や商標、その他の知的財産権全体を含んでいます。特許庁の英語名もJPO (Japan Patent Office) であり、Patentは広く知られている言葉ですので、MPDPの2番目の頭文字としてPが最もふさわしいと考えました。

さて、妹尾堅一郎氏 (NPO法人 産学連携推進機構理事長) が講演会などでよく使われるフレーズに、「特許取るアホ、取らぬバカ」があります。アイデアが生まれたら、それを依頼して権利化するのか、あるいはノウハウで保護すべきかを見極めよという意味ですね。

取るべきか？ 取らざるべきか？ まさにハムレットのように悩み、しっかりと答えを出すというプロセスが極めて重要です。したがって、P (Patent) の中には「知的財産権 (IPR)」にとどまらず、ノウハウや営業秘密など、広義の「知的財産 (IP)」が含まれているのです。

つまりMPDP理論のPは「自社のアイデア等を他者に妨害されない、あるいは追従されないために、知的財産の最適な活用法を考えるプロセス」と定義することができます。その選択肢の一つが「特許権」などによる保護であり、もう一つが「ノウハウ」による保護です。

さらに大企業の場合、「国際標準化」も視野に入れた知財戦略の検討も必要になってきます。

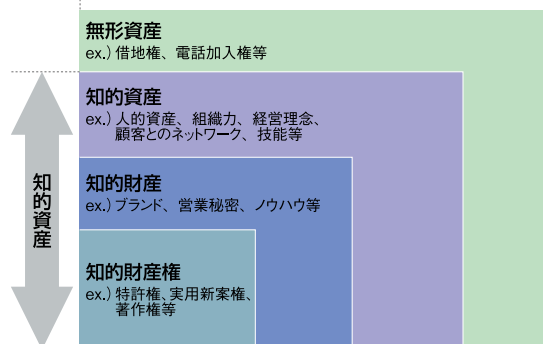
ここで、妹尾氏のフレーズにMPDPの視点や筆者の過去の反省を加え、以下のとおり七五調にまとめてみました。

「特許取るバカ、取らぬバカ、特許を取っただけのバカ」

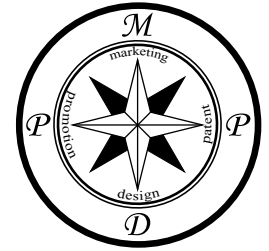
- ① 特許取るバカ：取るべきではないときに取ってしまい、貴重なノウハウが漏洩する。
- ② 取らぬバカ：取るべきときに取らず、権利侵害、あるいは模倣品が出現する。
- ③ 特許を取っただけのバカ：特許だけではカード不足、MPDPの4枚がそろって上がり！

MPDPの中でPatentが中小企業の最大のボトルネックだということは本稿でも何度か紹介しましたが、その理由の一つが前述したPの深層構造にあります。ハムレットのように悩み続ける中小企業には、知的財産をどのように活用すべきかという視点での確かなアドバイスを与える何らかの仕組みが必要ではないでしょうか。

知的財産権、知的財産、知的資産、無形資産の分類イメージ図



※出典：特許庁ホームページ  
[http://www.meti.go.jp/policy/intellectual\\_assets/teigi.html](http://www.meti.go.jp/policy/intellectual_assets/teigi.html)



ウ：今日はPatentの深層に迫るんでっか？

銀：MPDP理論でいうPatentは特許だけやのうて、意匠とか商標なんかの総称ですわな。

高：そのとおり、著作権も含めた知的財産権全体を含んでいるんだ。そもそもPatentの語源はラテン語のPatentesで、公開（open）するという意味なんだ（出典：『新英和中辞典』研究社）。

ウ：Patentのもともとの意味は、オープンでっか！？

高：公開させることを前提に一定期間の排他権を付与するというのが特許制度の基本的な考え方だからね。

ウ：産業発展のため、新技術は公開されるべきやね。

銀：けど、ウチらは公開したないねん、内緒にしときたいっちゅうのもアリでっか？

ウ：けっくさいやっちゃんえ。

銀：なんでやねん！ これワシの権利やさかい、当分は誰にも使わせへんちゅうのもシブチン（ドケチ）やで。

高：2人とも、なかなかいいポイントを突いてるね！

ウ：そうでっか？ やっぱり、ええコンビなんかなあ～？ これからも仲良く喧嘩しまひよ～（\*^\_^\*）

銀：「トムとジェリー」みたいに……って分かるかな？

高：つまり、考案を権利化するか、あるいはノウハウとして保護するか、最初の選択をしなければならないのが、MPDPのPatentのプロセスなんだよ。

ウ：他人には絶対に使わせん作戦も、内緒にしときましょ作戦もどっちもアリなんや。

高：その複合技もね。権利を独占してしまうのではなく、他者にも広く無償で使ってもらおうという作戦だ。

銀：それって、意味ないんちゃいまんの？ せっかく特許を取ったのに、みんなに使わせるんでっか？

高：社外との境界領域はオープンにするが、コア領域はきっちりクローズすることで、極めて強いビジネスモデルを作ることができる。国際標準化で成功するにはこの戦略が重要なんだ。

ウ：なるほど、Patentのプロセスは奥が深いわ～。

高：ところで銀次郎君、「桜切るバカ、梅切らぬバカ」という言葉、聞いたことないかな？

銀：「♪同じ切るなら、踊らなそんなん……」とかでっか？

ウ：それは阿波踊りやっ！

銀：ほなら……酔った勢いで、お花見の桜は折ったらあかんけど、梅の枝やったら折ってもええとか？

ウ：そんなわけないし、酔って枝を折るなんて最低や！

銀：いや、ワシが折るゆうてへんやん。

ウ：桜は切ったら腐りやすくなるから切らんほうがええ、反対に梅はきっちり剪定したほうが枝ぶりがよくなるっちゅうことでん？ 社長はん。

高：そのとおり。樹木の種類によって手入れの方法を変えてやらないと、せっかく育てた木を枯れさせることになりかねないという昔からのことわざなんだ。

銀：やっぱ人間、恥をかかんと賢うなりまへんな（\*^^）v

高：銀次郎君、じゃあ「特許取るバカ、取らぬバカ、特許を取っただけのバカ」の意味は分かるかな？

銀：最初の2つはノウハウと権利化の区別でっしゃろ。

ウ：2問クリア。サッスガ、恥かいただけのことあるわ！

銀：3つ目は、特許を取っても、MarketingやDesign、Promotionがダメダメやったら、ヒット商品にはならんちゅうこと。若いころの社長はんみたいに……。

ウ：ひと言多いんやて！

高：いや、実際にたくさん失敗を経験してきたからね。とにかく銀次郎君、全問正解！ 素晴らしい。

銀：MPDPダイアリー毎回読んでますから！（\*^^）v

高：特に中小企業は、経営層がビジネスモデルと知財活用についてしっかりと意識を持つことが必要なんだが、それを推進しようとしているのが……。

銀・ウ：中小企業センター！！ 高崎船長、頑張れ～。

高：アレっ、前回と同じエンディング？（^-;）でも頑張るま～す！